



クリニックコスモス長野
介護老人保健施設コスモスさいなみ
介護老人保健施設コスモスさいなみ
コスモス長野通所リハビリテーション
コスモスさいなみ通所リハビリテーション
長野地域包括支援センターコスモス
居宅介護支援事業所コスモス

訪問看護ステーションコスモス
ヘルパーステーションコスモス
グループホームコスモス長野
グループホームコスモスさいなみ
グループホームコスモスあもり
短期入所生活介護事業所コスモス
コスモス長野デイサービスセンター

コスモス松川デイサービスセンター
グループホームコスモス松川
小規模多機能型居宅介護事業所コスモスホーム
居宅介護支援事業所コスモス松川
クリニックコスモス松川
株式会社コスモスプラネット

インフルエンザ対策実施中

咳エチケットを守りましょう

新型インフルエンザについて
「面会の皆様へお願い」
長野市内でも「新型インフルエンザ」が発生しております。
当施設では、感染予防を徹底する為、しばらくの間、洗濯物の引き取り以外の面会を制限させて頂きたく思います。また、どうしても面会をされる方は「マスクの着用」と「手の消毒」を徹底し、受付にて面会の申込をお願い致します。

ご存知ですか？咳エチケットとは

- ①咳が出る場合には不織布製マスクを着用する。
- ②咳、くしゃみの際は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて一メートル以上離れる。
- ③鼻汁、痰などを含んだティッシュは直ぐに専用のゴミ箱に捨てる。
- ④手はよく洗う。



託児所を設置しました

当法人で働く職員のため託児所を設置しています。場所はコスモスさいなみの三階で、愛称は「たんぽぽ」です。

コスモス長野フロア紹介

＜クリニック＞

クリニックコスモス長野は、十九床のベッドを有する介護療養型施設です。職員は看護師、介護士、外来看護師、薬剤師、栄養士、事務の十四名です。入所者のほとんどが、寝たきりの方で会話の可能な方は数名です。細かな病状変化に合わせたケア、ベッド上でのリハビリと皆一生懸命です。日々のケアの中、入所者のわずかな表情の変化にも一喜一憂し、仕事に生きがいを感じています。職員は明るく仲良くをモットーとしております。最高のチームワークで毎日頑張っております。（看護師長 小沼洋子）

＜老健三階＞

南の窓からは松代の山並みが、東は遠く若穂地区、北からは飯綱山が一望できる我が三階フロアです。スタッフはお互いの意見が言い合え、とてもまとまりがあります。忙しい時ほど、声を掛け合って仕事をしています。しかし、そんな真面目な仕事ぶりからは想像もつかぬような、私生活は意外な一面があるようです。ステーションには、いつの頃からか数名の利用者様がいらしてスタッフと話をし

たり、和やかに過ごされています。これからも明るく活気あふれた三階フロアでありたいと思います。（看護主任 藤森亜貴子）

＜老健二階＞

二階フロアはコスモス長野内で一番多い六十床ですが、医師、看護師、介護士、リハスタッフなど協力し合い介護を行っています。フロア内では、利用者による作品展や月一回の行事、毎日のレクなど行っています。

＜老健別館＞

私たちが勤務している別館。専門棟は創設から十一年になります。現在、認知症の入所者四十名と共にその人が作る世界を理解しつつ奮闘している毎日です。人それぞれの生き方があり、その人の心に向き合うのが仕事である以上、向き合いながら勉強させられている日々であります。（看護主任 寺澤恵子）



医療法人コスモス 理事長 清水 健

医療法人コスモスは平成八年に老人保健施設を開設したことから始まりますが、このことは高齢化社会へ突入する中で、老人保健施設こそが高齢者の介護の拠点であるとの認識によるものであります。

老人保健施設は病院と在宅との間で、病院治療は終わったが在宅介護を受けるには未だ不安が残る高齢者を一時的にお預かりし、リハビリや医療を続けて在宅での生活を可能にすることを目的として運営されてきました。その後社会構造が変化し、夫婦共働きでないと家計の維持が困難となり、したがって在宅介護は困難となり長期入所希望者が増加してきました。このニーズに応えるためには、特別養護老人ホームの数を増やすか、老人保健施設の入所期間を長くすることであり、高所得者は有料老人ホームに入り、低所得者は高齢者賃貸住宅に居を移すようになり、最近の不況続きではこれらの入所者も減り、在宅でネグレクトされる高齢者が増加しています。一方、在宅復帰を目指す老人保健施設でも、長期入所を希望する方が増加していますが、老人保健施設理念の一つである家庭復帰がうまく行かないため、施設間を渡り歩くことにより表向きは入所期間を短くして、あたかも在宅ケアを支援しているかのごとく対面を整えている施設が増加しています。いっそのこと、一部の入所者には公然と長期入所を認めるほうが家族や本人にとってより幸せであると考えられます。

医療法人コスモスは、有床診療所を中核として、二つの老人保健施設、短期入所生活介護、認知症グループホーム、有料老人ホームなど入所施設のベッド数は四百床を超えるに至っています。また在宅介護支援部があり、訪問看護・訪問介護などの他に、デイケア・デイサービスなどの通所介護の定員も百六十を超えるに至り、医療・介護・リハビリを含めた総合的ケアを行うにふさわしい施設となりました。私達の医療法人は、介護予防からターミナルケアまで幅の広い分野で、ひとたびお預かりした高齢者は人生の最期まで心を込めて介護させて頂くことを理念として社会に貢献していきたいと思っております。

さいなみ便り

四月の法改正に伴う対応が定着してきており、安定したサービスの提供が行われています。

「老健さいなみ」入所棟は、各委員会・係の精力的な取り組みが更に定着し、より質の高い介護サービス提供に励んでいます。デイケアは依然盛況で、この時期の恒例行事「24時間テレビチャリティ募金」に協賛するため、販売する作品作りの熱意が高まっています。また、八月十一・十二日には盛大な夏祭りを計画しています。

在宅介護支援部では、「地域包括支援センター」が介護予防や困難事例等への積極的な取り組みを行い、また介護者教室は毎回盛況です。「短期入所生活介護事業所」は、より利用しやすい施設を目指して、実施地域の拡大と利用規定の見直しを図ります。「居宅介護支援事業所」、「訪問看護ST」、「ヘルパーST」は、季節の変化の激しい中でも外回りに励み、利用者や家族の必要に配慮した在宅サービスの提供に張り切っています。「GHさいなみ」は、爽やかな時季にドライブや散策等を楽しみ、充実した生活

松川便り

「デイサービス」では、六月の誕生日会として、お向かいの双葉保育園で合同誕生日会を催していただき、子どもたちと共に大変楽しい時間を過ごしました。「グループホーム」では、新しく加わった通所サービスのご利用者さんと、松川北小学校の音楽会に招待されました。自分の孫を見ているような喜びで一杯になりました。「小規模」では、十月のふれあい広場への出展として、富士山の大きな絵の作成に利用者さん皆で取り組んでいます。楽しそうにお喋りをしながら作業が進んでおり、出来上がりがとても楽しみです。（事務局長 平沢）

グループホームあもり開設三ヶ月経過

地域とともに歩み始める



平成二十一年四月一日に開設した「グループホームコスモスあもり」は医療法人コスモスにとっては、四番目のグループホームです。

入所者は十八名。うち男性五名で、男性の数が五名というのは、当コスモスのグループホームでは初めての最多人数です。入所されている方の平均年齢は八十四歳で、最高年齢の方は九十八歳です。この方は、朝から晩まで縫い物をしています。布の端切れで「いちご」「ウサギ」「まり」等を作っています。今は、七夕用のクス玉作りに大忙しで活躍しています。

近隣の方々からお花や台所用品等をお届けいただき、中には、タオル五十枚も寄贈してくださった方もいらっしゃいます。また、入所者の中に囲碁が趣味の方がいますが、お相手をする人がいない話を聞いて、対戦相手に近くの囲碁の同好会のグループの方のご協力が得られることになっております。

また、ボランティアさんもオープン月早々に長野マジッククラブ、コーラス、手話等ご出演いただいております。今後多くの方々のご支援のもとに、愛される施設として歩んで参ります。

職場紹介

「地域包括支援センター」 コスモス

地域包括支援センターコスモスは平成十九年一月に開所し、川中島地区と更北地区を担当しています。包括は高齢者の生活を支援する地域の相談窓口となっており、何でもお気軽に相談してください。個人の秘密は守られますので安心してください。介護保険の申請についての説明や申請のお手伝いをさせていただきます。介護認定により要支援となった人たちの介護サービスの計画を考えます。また、老後の生活を安心して暮らしていけるように法律の専門家を紹介することもあります。その他、家の廊下やトイレに手すりをつけたいとか、段差をなくしたいとか、介護用品をほしいとかいう人たちの相談に乗っています。

包括では毎月介護者教室を開催しています。認知症についての講義や、音楽療法や、老後に役立つ法律についてなどいろいろなお話をしています。年に三回は介護者の方たちの為の集いも行っています。いづれも土曜日に開催していますので皆様のお越しをお待ちしています。
(田中中和子)

ニュース フラッシュ

善光寺回向柱コスモスへ

七年に一度の善光寺御開帳が史上最高の人数のうちに五月三十一日に幕を閉じました。この御開帳を前に三月二十九日、回向柱が松代から善光寺へ奉納される途中コスモスに立ち寄りしました。当日は朝から近隣の方々も二百人近く集まって迎える中、特別に通行許可のあったコスモス長野



入所者も車椅子で、あるいは窓から拝み感慨を新たにしました。

ぷちカフェコスモス プレオープン

清水理事長宅の改築に伴う旧土蔵について理事長のご好意により喫茶店としてご利用者様、ご家族様、また職員の皆様の憩いの場所として利用することができるようになりました。正式には保健所の許可が出る七月中旬に開店しますが、過日プレオープンし、喫茶店の北側芝生の屋外で入所者に楽しんでいただきました。ボランティアさんにより、屋外喫茶店として、夏の陽射しまぶしい中、大型のパラソルの下でハーモニカ演奏、勝田相談役によるマジック等楽しんでいただきました。
(運営はコスモスプラネット)



新入職員歓迎会開催

六月三日長野駅前ホテルメトロポリタンにおいて職員一八〇人出席のもと職員歓迎会が開催されました。ご来賓の塩入市議員からの祝辞、清水理事長からの歓迎の挨拶のあと、新入職員四十四人全員壇上にあがり、一人ずつ順次自己紹介に入り、居並ぶ職員の歓迎の拍手を受けました。



浅井恵子さんの個展

コスモス長野本館二階に入所していらつしやる浅井恵子さんは、同フロアで「花に想いをよせて」として個展を開催しています。

浅井恵子さんは、大正十年のお生まれで、八十七歳。女学校時代は、バレエの選手、スキーをされるなどと共に、文学好きでもありました。

短歌歴は二十年、また絵画も同様筆ペンで描かれる。絵を描かれるようになった動機は、肺炎で寝たきりになったとき孫娘がベッドから起こしてくれた。そこにバラの花があった。それを描いてみた。孫が上手に描かれていたよ！と褒めてくれました。それが絵を描き



始めた動機となりました。以後クレパスで、また絵の具で描いてきました。絵のモデルはすべてお花で、描いたスケッチブックは三冊に。

その後、市役所のホールで講演もしました。コスモスに入所してからは毎日楽しく過ごしており、これが「コスモスの詩」という一冊のノートに。浅井さんは五十歳の時にリュウマチを発病、手が不自由です。私はお花に向かって「描かせてください」といって描き始めます。描き終わったら「ありがとう」といいます。上手く描けなかったときはお花に向かって「下手でごめんね」といいます。お花は私に向かって「しっかりと頑張るなさい」と言ってくれます。一つの絵に一つの詩。

リハビリ職員による 内部研修

職員の介護のスキルアップを図るための移乗動作とベッド上の介助方法等について、講義と実技の研修を実施しております。



ボランティアさん紹介

すみれ



毎月二回、火曜日に活動されている「すみれ」のお二人をご紹介します。

引場さんは、五年くらい前から、喫茶のボランティアとしてはじめられて後、傾聴ボランティアの研修をうけてから今の活動になって二年ほどになります。

もう一人の山岸さんは、引場さんとご縁があって、ハーモニカやアコーディオンで伴奏をつけたり一緒に歌ったり、ジョイントの活

動が始まりました。また、利用者さんのご家族でもあります。内容は朗読、紙芝居、歌などで、小道具や着ぐるみを用意して、まるで演劇のように構成されています。いつも見る人をひきつけてくださいます。二人の呼吸もぴったりで、掛け合いも楽しい様子です。今日は、人形の「さくらちゃん」の登場で、童謡を歌ったり、布団乾燥機を使って白い大きな袋を膨らませて大根にみたてたりと次はどのようなかわくわくです。

実は「すみれ」さんの活動日はあえてフロアの入浴日になっていきます。職員が入浴の対応で多忙な時間に、退屈して、落ち着かない気持ちの利用者さんを楽しませてくださっています。そんな気さくな「すみれ」さんに職員も大変に助けられています。
(コスモス長野 大蔵)

コスモス長野デイサービス拡充

コスモス長野のデイサービスの定員は現在三十名ですが八月一日から四十名の定員に拡充します。

現在工事が進行中です。今回の拡充により今まで以上に快適な施設をめざしております。